

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↓ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1.理念に基づく運営				
1.理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくっている	「心やさしくおだやかに のんびりと自分らしく」の理念の中で、職員も入居者も共通の理念だと思う		基本方針の中で、「尊厳・安心安全に暮らす、ホームと家族・地域とのふれあいを大切にします」が掲げられている。これが、理念を支えるものだと思います
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝申し送り後、一日の始まりに理念と基本方針を唱和することで皆が改めて認識する場としている		入居者の問題行動がある時に、理念を思いおこしながら対応に努めている
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	第2回の夏祭りを開催し、第1回より地域の範囲を広げ施設の存在をアピールし、地域密着に近づけている。家族には、2ヶ月に1回のウイング便りに理念を載せており理解して頂いていると思う		地域密着に近づける為には時間がかかります。今まで通り施設行事の招待を考えながら施設の存在をアピールし、理解を得ていきたいと思っています。そこから、理念の実践に結びつくと考えています
2.地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所への買い物に入居者さんと一緒に行ったり、夏祭りへのお誘いの広告を配布したりしている		不要になったオムツを近所の方が持ってきて下さったり入居者と一緒におムツや食器などを取りにお宅に伺ったりしている
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭りに招待したり、子供会の廃品回収に新聞やダンボールを出したりしている		現段階で参加できている事は今後も継続していき、地域の活動に出来る限り参加出来る様に努めていきたい

グループホーム ウイング

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	夏祭りやクリスマス会に老人会の方を招待している		夏祭りでは、「今年も楽しませて頂いています」という声をかけていただいたりしている
3.理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価報告書に基づき、個々の反省文を提出してもらった		反省文に基づき個々の改善を行い業務に当たっている
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	H19年10月15日に第1回目の運営推進会議を開催します		遅くなりましたが、ここにくるまで状況的に色々ありやっと第1回目を迎えることが出来ました。今後、2ヶ月に1回の会議を開催して行きたいと思えます
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターからの入居の問合せに状況を伝えたり、運営推進会議への参加をお願いしている		運営推進会議に出席して頂く他にも近況報告をする等の連絡をとっていききたい
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部の研修に参加し、研修で使用した資料をレポートと一緒に提出してもらっている		今後、必要となってくる場合に備えて、外部研修等に参加し制度についての理解を深めていきたい
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修に参加し、資料とレポートの提出をしてもらっている。ホーム内でも入居者の対応について、気になる点があればその都度注意している		入居者が安心・安全に暮らせるよう、スタッフの教育と質の向上に努めていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだし解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は管理者と家族・利用者で話し合う十分な時間を確保するように努めている</p>	<p>入居後も家族・利用者からの不安・疑問点などに対してはすくに対応するように心がけている</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>相談・苦情受付の窓口を、重要事項説明書・ホーム内に掲示している。また管理者・職員は常に利用者の意見に耳を傾け苦情・不満があった場合は全職員にて話し合い対応するようにしている。</p>	<p>利用者が意見、不満、苦情を外部者へ表せる機会を特別に設けてはいない。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月の請求書送付時に、計画作成者による一ヶ月の状況報告を書いている。又、金銭管理に関しては、家族の方に見ていただき領収書の返却をしている。</p>	<p>健康状態に関しては体調不良・病院受診の報告は必ず行っています。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の面会時は必ず管理者・又は管理職に報告してもらい、ご挨拶に伺う。その時、利用者様の状況・世間話をしながら要望等を伺っている。</p>	<p>玄関に苦情受付箱を設置し、お便りの中にも写真付きでお知らせしている。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月の全体会議と各フロアの会議にて職員の提案や意見を聞いている。</p>	<p>日常的にも意見や提案を聞きながら経営者と管理者は常に施設にとって良い方向に反映させている。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>家族の病院受診の付き添いが無理な場合や利用者の急変時の対応は、職員の勤務調整に努めている。</p>	<p>利用者の状況により、職員の半日受診もあるが、各フロアのチームワークにより調整している。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の精神的ダメージもあり異動は7ヶ月～12ヶ月毎に行っている。</p>	<p>殆ど毎日お互いに行き来している為、異動による利用者へのダメージは今のところない。離職に関しても退職する事は利用者には伝えていない。それに関して利用者も何も言われていない。</p>

グループホーム ウイング

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援			
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>面接に関しては希望があれば全員対応している。良い人がいれば採用もしている。</p>	<p>趣味とかその方がもった能力を發揮して頂けるような方を求めている。</p>
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>外部研修の中では人権尊重について常に課題になっている。研修参加者にはレポート提出、発表をして頂く様になっている。</p>	<p>ケアで課題になったり研修での発表を含めていつも話し合える場を持てるよう取り組んでいる。</p>
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修の参加 新人研修の参加と段階に応じて行っている。</p>	<p>職員の退職、求人を出しても応募がなかなかこない。研修に行かせたくても行けないのが現状。やっと落ち着き始めてきたので、参加させていきます。</p>
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホームの協議会等があり、その中で他ホームとの交流・勉強会が開催されている。</p>	<p>他ホームからの見学・情報交換等を行っている。</p>
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>体調不良・精神的苦痛等、スタッフの顔色を見、話を聞いたりとフロアーを交替させたりと考えている。</p>	<p>今後は、旅行・食事会と気分転換をさせていきたい。</p>
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう努めている</p>	<p>施設の為に頑張ってくれている方には、時々により昇給・ねぎらいの言葉をかけている。</p>	<p>今後も実績のある方には、昇給等により認めてあげたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前の面談時にADL状況や健康状態などを本人より聞く機会を設けている。</p>	<p>初対面では奥深くまでゆっくりと話を聞く事は難しいが、アセスメントの検討などを行い効率よく話が聞けるように努めている。</p>
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>問合せの際や面談時に話を聞く様にしている。本人の前で話せない事などは、席を変え話を聞くようにしている。</p>	<p>相手が話しやすい話術・雰囲気作りに努めている。</p>
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>面談の際に本人・家族の希望・要望を聞く様にしており、常に「何が必要か」を考えるように努めている。</p>	<p>問合せを受けた場合は来て頂くだけでなく、こちらからも入院・入所先や自宅などを訪問し必要としている支援は何か？を検討している。</p>
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>まずは、見学をしてもらいホームの雰囲気を味わってもらえる様にしている。又、関係機関との情報交換を行い本人に合った方法で話を進めている。</p>	<p>本人も家族も入居に際しては不安を抱えている為、情報交換をおこなった上で、話し合いを重ね納得のいく支援が出来るようにしていきたい。</p>
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている</p>	<p>本人の能力に応じて、できる事は一緒に行いながら会話や表情をみて、一緒に笑ったり喜んだりしている。</p>	<p>現在の取り組みを行いながら更に、「利用者の思い」を知る努力をしていきたい。</p>

グループホーム ウイング

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族にしか出来ない支援 (面会・外出による精神安定など) をお願いしたり、出来る限り病院への付添いもお願いし状況の把握を一緒に行っている。		出来るだけホームに足を運んで頂けるよう連絡を取り合い情報の共有を行っていききたい。
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会の際に話を伺ったりしている。又、連絡のとりにくい家族についてもFAXを流したりしている。		より良いサービスを提供する為にも家族との関係・協力が重要であり、情報交換を密に行っている。
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている	なかなか希望に添える支援は難しく、何かの延長で通りかかったりすると懐かしまれる方もいる。		希望があれば馴染みのある場所へ連れて行ってあげたらと思っている。
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個々の性格や症状にあわせて、座席を考えた誘導を行っている。必要に応じてスタッフが間に入ったりしている。		大きな問題になる前にスタッフが間に入ったり、きっかけを作ったりしている。
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用 (契約) が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居先の関係者から連絡があった際に様子を伺う。又、管理者の方が家族の方と連絡したり、場合によってはお会いしてお話しを伺ったり、退居先に面会に行ったりしている。		退居された利用者や家族の相談には、現在も応じている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>計画書作成時や見直し時は、事前に希望や要望を聞いているが「特に無い」と言われる方が多いのも事実である。</p>	<p>日常生活の流れの中で要望などの把握に努めている。</p>
36	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>アセスメント時だけでは把握しきれない為、日常生活の会話の中で少しずつ聞き出している。</p>	<p>サービスを提供していく上で、これまでの生活歴は重要なものであり日頃からコミュニケーションを図り把握に努めている。</p>
37	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>個人カルテの記入により一日の過ごし方は理解できている。スタッフ間の申し送りにより能力の把握などを行っている。</p>	<p>スタッフ間の情報交換を行う事により能力の把握に努めている。</p>
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>毎日の申し送り等で出てくる問題を取り上げ3ヵ月ごとの担当者会議の中で計画書の見直しを行っている。又、家族面会時には状況報告をすると共に要望を聞いている。</p>	<p>一人の目線だけではなく色々な人の、色々な角度からの意見を取り入れて計画作成を行って行きたい。</p>
39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>サービス担当者会議を開きスタッフ全員で意見を出し合い、家族や本人にも要望を聞いている。入院したりしてADLなどの変化があった時は退院時にケアプランの見直しを行っている。</p>	<p>ケアプランの細かな変更のみの場合は手書きにて修正し対応している。</p>

グループホーム ウイング

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践 結果、気づきや工夫を個別記録に記入し 情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日ケアプランの項目に沿って評価を行い出来なかった場合はどうして出来なかったかを記入している。変化があれば個人カルテにも状況を細かく記入している。		サービス担当者会議には月評価の結果も参考に話し合いを行っている。
3.多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホーム一箇所しかないため特に多機能性はない。		いづれ別の施設の計画あり
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティア募集の広告を作り 地域の方へ配布を行っているがまだ希望者はない。	○	必要性に応じて各機関と協力しながら支援していきたい。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在活用している方はいない。		今後の課題として検討していきたい。
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターからの入居の問い合わせはあっており 状況に応じて入居の受け入れもっている。	○	運営推進会議等への参加もある為、今後も密に連絡をとって行きたい。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医より2週間に1度の往診があり 24時間いつでも連絡がとれる関係にある。往診日以外でも体調不良時は診察に来て頂いている。又、他科受診の際も医療機関へのFAXも直接送ってもらいスムーズな受診が出来る様になっている。		スムーズな受診ができ、入居者にも負担がかからない様連携をとっている。

グループホーム ウイング

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり利用者や認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	神経科・精神科・内科等と症状に合わせて相談・受診を行っているが、認知症の専門医ではない。		進行性の認知症の場合、特に本人・周囲も戸惑いがある為、相談できる機会があると安心できるが、認知症の専門医は少ないと聞いている。
47 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	地域の看護師との関わりは無いが、往診で来て頂く看護師は決まっており入居者の事は理解されている。		平成20年度訪問看護の導入を検討している。
48 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるようまた、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した際はスタッフが交代で面会に行き状態の把握を行っている。又、退院時医師との話し合いにも家族了解の元同席している。		面会時に利用者様の様子を伺っても守秘義務がある為知らせていただけないが、ご家族様の方へ連絡をとり状況の把握を行っている。
49 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族・管理者・かかりつけ医と話し合った結果は他スタッフへ文章により情報共有を行っている。		個人の状態に応じて早い段階で話し合いの場をもち、本人・家族にとって負担の少ない方法を検討した。
50 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医療的処置が必要となってくる場合は、家族の意向・かかりつけ医との話し合いによりその人に合った施設への転居を検討している。		出来るだけホームで生活できる様支援していくが、医療的処置が必要となった場合は、次の受け入れ先を検討していかなければならないと思っている。
51 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移住する際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	転居先のケアマネ・相談員と直接会って情報交換を行っており(サマリーの利用)環境の変化を最小限に防げるように努めている。		関係機関と密な情報交換を行いながら、本人への負担が少ない方法を考えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録などは、内容が見えない・見せない配慮をしている。不穏・失禁などの対応を居室にて行い、他の入居者に分からないようにしている。	入居者の理解力に合わせて対処する。スタッフが常に気をつけて行っている。(ちゃんつけなど行わない)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたりわかる力に合わせた説明を行い、自分で決めた！納得しながら暮らせるように支援をしている	すべての方に対して、まずは自己決定の働きかけを行うも理解できない時は角度、簡潔に話をし、決定していただく様に心かけている。	相手が分かりやすく、理解できる様な言葉掛けを行っている。
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の始まりに、その日の流れを確認してから業務にあたっている。個々の生活リズムを崩さぬ様に気を配り、穏やかに過ごせるよう努めているが、時として業務優先になることもある。	余裕を持って、入居者と会話する事が出来ればと思う
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理美容は2ヶ月に一度で訪問にて対応している。服装に関しては、日々入居者と相談して決めている。女性はご自分でお化粧される方もおり、男性は介助ではあるが毎日の髭剃りも行っている。	女性はお化粧を忘れている方もおり、外出時などお化粧やお洒落を楽しむ時間を作っている。
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を一緒に作ることは、身体的無理があるが、配膳の協力やテーブルにて調理できる、手作りおやつ等は共に実施している。	手伝いをしたくない方もいるため無理押ししないようにしている。
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	アルコールに関しては、行事に時に少量ではあるが、希望者に提供している。喫煙に関しては、訴え時に喫煙できるようにしている。おやつは、10時、15時と提供し、他本人持ちのおやつに関しては、時間の制限はあるものの希望時に提供している。喫煙コーナーの設置をしている。	個々の持っている病気を考慮し、出来る範囲で提供していきたい。

グループホーム ウイング

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表の活用により、個々に合った排泄支援をしている。又、状況によって昼は下着・夜はリハビリの選択を行っている方もいる。		排泄に失敗しても、自尊心を傷つけない様、配慮をし、清拭等、細めに清潔保持に努めている。
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決まっている。入浴介助者とフロアスタッフとの連携により、早めに声掛けや直前の声掛けを行っている。拒否があった際には、時間を変え、臨機応変に対応している。		入浴日が1F 火・木・土 2F 月・水・金 となっている。月～土までは入浴できるので本人が希望すれば入浴できる。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	健康管理に気をつけ、体調不良時は休息を促したりしている。居室で過ごす方もいらっやして、それはそれなりに尊重している。		個々の能力にあった機能訓練を日中施行し、適度な疲れを感じていただき、安眠につなげている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その方の能力や生活歴を把握した上でスタッフ間で話し合いを持ち、手伝いをお願いしている。		それぞれの役割を持っていただき、本人の力を活かした支援をしている。
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は職施設サイドで行っており、個人管理は難しい。		買い物の際は本人に選んでいただき、支払い時は財布を渡して支払っていただいている。
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節感を感じて頂くために、ドライブ、散歩、買い物と外出する機会を設けている。		入浴日以外は、出掛ける事ができるので希望に沿って支援している。
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段いけない場所や祭り、季節のイベントにあわせ、計画を作成し、支援している。		家族に声掛けするも参加が少ないので、今後も外出計画を行い、家族の参加を呼びかけていきたい。

グループホーム ウイング

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり手紙のやり取りができるように支援をしている	認知があるため時間など構わず希望されることがあるが時刻を伝え翌日に対応する。ご家族の希望で拒否されている所もあり。ご家族からの電話は常時取り次ぎを行っている。		手紙を書く人はほとんどいない。電話は本人が希望すれば取次ぎを行っている。
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族以外の訪問は少ない。いつでも自由に訪問できるように、廊下などに椅子、テーブルを準備している。家族が見えたときには、明るく挨拶し、帰りの際は入居者と共に玄関まで見送りを行っている。		必要な方には間に入りコミュニケーションが出来るよう配慮している。
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現段階は身体拘束をするような入居者はいない。危険防止策の話し合いに取り組んでいる。		身体拘束についての勉強会などに積極的に参加していきたい。
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており鍵をかけないケアに取り組んでいる	通常、基本的に施錠はしていない。居室は本人の自由に行っている。スタッフ全員が個々の所在を把握し、互いに確認を実施している。		不穏や徘徊時以外は開放できるよう取り組んでいる。
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は、勤務スタッフ3名の声掛け合いにて所在確認をしている。夜間に関しては、2時間おきの巡視をしている。体調不良の方に対しては、細めに訪室 巡視を行っている。		居室は個人のプライベートルームとして意識している。
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	生活する中で必要物品の検討をしている。注意が必要な物品のみ、保管管理を施設側が行っている。管理できる方のみ点眼・湿布に関しては、個人に渡している。		入居者個人が所持している、危険と思われる物品の把握をしている。管理場所の施錠を行っている。
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	環境の整備を心がけている。危険の予想される人には細心の注意を払っている。薬に関しては服用する前に、声に出して、名前・日付 確認を行っている。又、巡視 訪室により所在 確認も行っており 食事の際には1テーブルにスタッフ1名がつく様にしている。		言葉では常に話しあっているが個人の状態に合わせた防止対策をマニュアル化したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全職員が救命講習を受講し、基本的な応急手当は勉強している。すでに数回対応し、チームワークにより無事に利用者様は帰苑されている。		定期的な訓練をしていない為、イメージトレーニングや訓練をする機会を増やしていきたい。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年 2回3月・9月に消防訓練を入居者と共にしている。避難経路の確認や通路に障害物を置かないようにしている。		火災時、避難場所を職員、家族が分かるようにしておきたい。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	面会時、計画更新時、電話をいただいた時には、入居者の日常の様子を知らせたりする。又、施設より知らせる事もある。		理解力の低下に伴う転倒などのリスクがある場合は、事前に家族に説明を行っており、理解して頂いている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	個人記録に残したり伝達ノートにて、情報を共有し、対応している。異常が起きた際はDrに報告し、指示を仰ぎ、その際も報告書などにより情報を共有している。		身体的・精神的に変化があった際は、常に24時間Drとの連絡を取り、指示を仰ぎ、入居者の体調に配慮している。
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方をして頂く際に毎回、説明書も頂き常に新しい情報をカルテに入れている。変更があった薬については、受診報告書、日誌に記載し、分かる様に色をつけ情報を共有している。		受診・往診時の報告書を共有すると共に、処方箋を見て効果効果や注意事項の確認をしている。
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝、排便の確認を取る。又、出来る限り自然排便を促しているが、排便が困難な方には下剤の使用を行っている。		食時の際、食物繊維を取っていただく様促したり、マッサージ・運動・水分補給を行っている。
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアの声掛け、一部介助を行い夕食後には、義歯を預かり洗浄している。		毎週 1回、訪問歯科の受診を受け、義歯の調節、口腔ケアを実施している。

グループホーム ウイング

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通して確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後個人記録に摂取量記入している。本人に合った材料の大きさに注意している。夜間はペットボトルに入れたお茶を渡し朝、回収して水分量を把握している。昼間は10時・15時のおやつ以外の時間以外でも、水分補給をしている。		タイハイ食材を発注し、栄養士が立てられた老人食を、調理している。
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防のマニュアルがある。塩素を使い、手すり・床・居室・トイレの掃除を行っている。空気の入替え、HEPA交換・布団干しを行っている。		薬用石鹸にて手洗い実行、外出後は手洗い・うがい実行。職員は月に1回、検便を行っている。
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具の除菌。毎日、台所内除菌。食材は新鮮なものを使用。台所エプロン使用。三角巾使用。		衛生管理表を作り担当者のチェックを行っている。
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	夜間以外は、玄関は施錠せず、自由に出入り出来るようにしている。手造りのベンチ・花壇等を作っている。		近所の方が散歩の途中で花壇のお花を見に来られ「いつも楽しみにしてます。」と言われている。
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないよう配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りつけを壁やフロアの入りに飾っている。		壁面の飾りは入居者と一緒に制作する様にしている。
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内に数箇所ソファを設置。自由にくつろぐことが出来るようにしている。テーブルには新聞・雑誌等を設置し、浮腫にならない様、足上げ椅子も置いてある。		思い思いのところで自由に過ごされている。

グループホーム ウイング

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の使用しているタンス・TV 仏壇等を居室内に配置し、安心して過ごして頂ける様にしている。		本人に合わせ、畳・じゅうたんを使用している。
86	換気 空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝、必ず新鮮な空気の入替えを行っている。その後は、定期的な訪室により 空気の入替えや温度計を各居室に設置しながら調節を行っている。		温度調節については、理解できる方のみエアコンを居室に置き、理解低下の方は職員が行っている。ただし、全員の居室の温度の確認はしている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子でも、安全に移動できる様、家具の設置をしている。必要に応じては、手すり代わりに安定感のある椅子を設置を行うこともある。		通路を大きく確保できる様に取り組んでいる。
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々のレベルに合わせ、出来る事は出来る限り自分で行っていただける様促している。		理解できる入居者とは話し合いを持ち、出来ることはなるべく自分で行って頂き、出来た際には共に喜び、次へのステップにし、自立への支援へ繋げていきたい。又、そうでない方には、見守りしながら、必要に応じて介助や支援をしている。
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんで活動できるように工夫している	玄関付近には、季節の草花を植えている。花の水やりが出来る様、ホース・ジョウロ等を準備されている。車椅子でテラスに行き、外気浴や喫煙をされている。		過ごしやすい季節には、テラスにてお茶・レクリエーションを取り入れている。

.サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の 2/3 くらいの	
		利用者の 1/3 くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に 1 回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない (季節によって異なっている。)	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の 2/3 くらいと	
		家族の 1/3 くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム ウイング

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように
		数日に1回程度
		たまに
		ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている
		少しずつ増えている
		あまり増えていない
		全くない
100	職員は、活き活きと働いている	ほぼ全ての職員が
		職員の 2/3 くらいが
		職員の 1/3 くらいが
		ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が
		利用者の 2/3 くらいが
		利用者の 1/3 くらいが
		ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が
		家族等の 2/3 くらいが
		家族等の 1/3 くらいが
		ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・施設という集団生活の中で、本人の自由を尊重しながら、安心してその人らしい当たり前の生活が送れるよう日々取り組んでいる。
- ・役割ある、主体的で充実した一日を送り、共に過ごす生活者として豊かな関係性の中で、笑って過ごせるように心がけ支援している。